

研究課題：幼小接続期におけるサビタイジングを基盤とする認識の発達と学びの道筋の構築

研究課題/領域番号：20K22198

研究種目：研究活動スタート支援

研究代表者：中橋 葵 京都文教大学，こども教育学部，講師（40878261）

（概要）

本研究は「サビタイジングを基盤とする認識（全体と部分の関係に着目して具体物の数を瞬時に認識すること）」と呼ばれる数に対する認識に着目する。先行研究では、サビタイジングを基盤とする認識は「サビタイジング（カウンティングせずに具体物の数を瞬時に認識すること）」をもとにして行われ、算数の学びを支える重要な認識であることが示唆されている。しかし幼小接続期の発達の実態や学びとのつながりは詳細に示されていない。これまでに申請者が行った面接形式の実態調査では、タブレット画面上に現れるドットの数（1～10個）を瞬時に解答することを求め、解答にかかる反応時間を主な根拠としてサビタイジングを基盤とする認識を行っているか否かを判断した。加えて本研究では視線を計測し、参加者がドットのまとまりを一目で捉えているのか、一個ずつ目で追っているのかを判別することを試みる。発達と学びの道筋の構築のための十分な根拠が得られることが期待される。